

【評議員挨拶】公益財団法人日本バドミントン協会理事・池田信太郎評議員

日本バドミントン協会の理事、スポーツエコシステム推進協議会の評議員を務めさせていただいている池田です。

私は30年間、バドミントン競技をやってきましたが、昨今、本当に複雑化していると思っています。内部環境では、オリンピック、パラリンピック、そしてデフリンピックと、いろいろなステークホルダーがいます。それぞれのステークホルダーやアスリートにコミュニケーションしていくツールは多様化しています。スポーツの環境でいうと、ガバナンスが非常に注目されていて、スポーツ競技団体でもガバナンスの問題で組織不全に陥る可能性が多数あるのではないかと考えています。

スポーツの価値をつくるには、まず重要なのはガバナンスだと思います。なぜなら、(ガバナンスが整っていないと)権利が明確にならないからです。そして、ある特定の人たちに権利が集約して、そこで意思決定が行われてしまうと、その権利が最大化できなくなります。こうした点が非常に重要だと現在考えています。

今までのスポーツは、閉鎖された空間で体験価値がつくりにくいハードとソフトの中で、体験価値を一から作り上げていかなくはない時代でした。でも、今はすばらしいアーリーナが日本にも多くあり、先ほどお話があったエスコンフィールドのようなハード単体ではなくて、スポーツのツーリズムで産業をつくっていく欧米型のスポーツ産業が、今後、成長していくと思っています。

そこで重要なのは、冒頭の稲垣さんの話の中心にあがったことです。スポーツや我々アスリートを支える競技団体、プロスポーツリーグが、選手の価値を可視化し、マーケットに最適な価値で売ること、周りのステークホルダーが、それをビジネスにつなげていくことができるのではないかと考えています。

スポーツの未来をつくるためには、エコシステムを回さなくちゃいけない。これがとても重要で、1つの企業に権利が集約するのではなく、そこから大きく循環していくようなシステムが、スポーツには重要だと強く思っています。そのようなことがこの財団法人から発信され、2年、5年、10年すると、スポーツの価値が2倍、3倍、10倍になるという未来を皆さんと描くことができれば最高だと思いますので、このサステナブルな財団法人を皆さんと一緒につくっていきましょう。よろしく願いいたします。